

(メッセ海外通信 2010年7→9月号掲載記事)

～「映画の故郷・釜山」を支える釜山フィルムコミッション！～

下関市総合政策部国際課
(釜山広域市派遣職員)
植田 禎俊

近代的な高層ビル群と、懐かしく温かい雰囲気融合した港町釜山。この街は、毎年世界的な映画祭であるP I F F「釜山国際映画祭」が開かれる街でもあり、韓国をはじめとする多数のアジア映画が製作されている街でもあります。

その原動力となっているのが、国内外の映画を誘致し、ロケハンから撮影まであらゆる角度から映画の製作を支援する公的な機関である『釜山フィルムコミッション』の存在です。釜山で毎年10月に開催されている釜山国際映画祭は1996年から始まっていますが、コンペスタイルを採用せず、さまざまなジャンルの質の高い映画を上映することによってアジアをリードする映画祭に育っています。釜山フィルムコミッションはその映画祭が始まった3年後の1999年に立ち上がりました。本格的な活動開始となった2000年から2009年までの10年間で長編映画291本(内、海外33本)、それ以外のドラマ・CMなど321本(内、海外41本)合計612本の作品を支援しています。日本からの作品は、下関と釜山がメインロケ地となり2002年に上映された下関市出身の佐々部清監督の「チルソクの夏」の他「20世紀少年～もう一つの第2章～」等があります。

年間のロケハンを加えた撮影日数は1,000日前後となっており、地元の経済効果は、各年によってばらつきはあるものの、撮影による直接支出費用が100億ウォン前後、経済波及効果は400億～500億ウォン前後で推移しており、釜山にとって重要な産業の一つに成長しています。

釜山フィルムコミッションでは釜山を舞台にした映画を生み出し、撮影の支援をするため、作品の構想段階から脚本家・シナリオライターへは1ヶ月以内で宿泊費を支援したり、海外映画についての釜山での撮影費補助等を行っています。撮影に関する困難かつ複雑な諸手続きは、地元の消防や警察等関係団体との連携等により円滑に行います。昨年韓国内で1,100万人を動員し大ヒットとなった映画「海雲台」では、ダイヤモンドブリッジと呼ばれる釜山の広安大橋を封鎖しての大掛かりな撮影を成功させるなど映画製作の裏方役として存在感を示しています。

さて、釜山を舞台にした最新映画情報としては、香港映画『男たちの挽歌』(1986年)のリメイク映画「무적자(無敵者)」(チュ・ジンモ、ソン・スンホン、キム・ガンウ、チョ・ハンソンらが出演)が今年7月はじめにクランクアップし、9月に韓国で上映されます。監督は『力道山』や『私たちの幸せな時間』などのソン・ヘソン監督がメガホンを取り、100億ウォン台の製作費が投じられた大作とのこと。

是非、釜山が舞台の映画を釜山フィルムコミッションの支援を意識しながら鑑賞してみたいかがでしょうか？

(※) 映画「海雲台」は今秋日本で邦題「TSUNAMIーツナミー」として放映されます。オフィシャルサイト <http://www.mega-tsunami.jp/>



釜山FCが支援した映画「海雲台」の撮影風景